

# 小野田の田植踊



月崎田植踊



中嶋田植踊

小野田の田植踊は、<sup>なかしま</sup>中嶋田植踊と<sup>つきざき</sup>月崎田植踊を併せた総称で、昭和35年に県指定無形民俗文化財に登録されました。正徳年間（1711～1715年）から続くと言われており、藩政時代にはその年の豊作を願う正月の予祝行事として1月14・15日に各戸を巡り踊られました。

中嶋・月崎いずれの田植踊も、口上役と道化役を兼ねた「弥十郎」ときらびやかな衣装をまとった「早乙女」、「笛・太鼓・カネ・唄上げ」に分かれて演じられますが、これらの人数構成や曲目などには違いがみられます。早乙女は、花模様の<sup>つまおりがさ</sup>妻折笠に木綿の手拭を<sup>てぬぐい</sup>頬冠りし、振袖に<sup>てっこう</sup>手甲・<sup>そうり</sup>草鞋を身に着け、扇子を2本持って踊ります。



中嶋田植踊



月崎田植踊

歌詞には「<sup>かん</sup>寒の郡」という加美郡の古名が唄われており、加美郡内や大崎市の田植踊に影響を与えていることから、県内に伝わっている田植踊の中でも古式のものとみられます。